

光云の右に膝をたて首を懐き懐き
何大爺官五層のまに梅櫃の本四十八
寸の板を削り唐やれぬ程釘を裏より差
お貫て首の指し首の面をむく
首のあまの穴へ糸を指し首を正し
指すも板を抱く大将の体より一丈足
南に膝をたてむけ膝をついて腰を
伊多子海山望む山名の院を主大将

と張人との男より一丈有るを
大将も太刀の柄を握りて
此一右の足と左の足の上を
顔より一度白眼を
是付大爺官五層のまに首を
口より退く鳥を
より首をたて
い首をたて